

悪夢の時刻昭和43年(1968年)午前9時49分(48分54.5秒)

強震・青森県を襲う!!

十勝沖地震について

※写真は、「68年十勝沖地震の記録」1968年7月10日 東奥日報社発行 から引用



真ん中を人がやっと通れるほどのこしてくずれた十和田市伝法寺の国道4号線



陸奥市川駅

2024年3月9日

柿崎 孝治

十勝沖地震

昭和43年(1968年)午前9時49分(48分54.5秒)

青森県政史上未曾有の大きな被害に見舞われた

1968年十勝沖地震（とかちおきじしん）は、1968年5月16日に最も震源地に近い、青森県東方沖（三陸はるか沖）で発生した気象庁マグニチュード7.9、モーメントマグニチュード8.2の地震である。この大地震は、マグニチュード7.9という関東大震災とほぼ同等なものである。青森・八戸・田名部 震度5 ※震度計のある観測所測定

『**三陸沖地震（または三陸はるか沖地震）**』と命名されるべきものだった

震源は1994年に発生した三陸はるか沖地震の北東にあたり、本来であれば『三陸沖地震（または三陸はるか沖地震）』と命名されるべきものだった。しかし、**速報値の計算の際に震央が本来の位置より約50kmほど北に計算され、**津波警報の発令など緊急を要する各方面からの要望により早急に地震の名称を決める必要に迫られた為、震源を十勝沖として発表した事から『**十勝沖地震**』と命名されたものである

○青森県に被害を及ぼした主な地震



西暦（和暦）	地域（名称）	M	主な被害
1960年5月23日 （昭和35）	（チリ地震津波）	Mw9.5	死者3人、負傷者3人、住家全半壊115棟、 家屋流失8棟。
1968年5月16日 （昭和43）	（1968年十勝沖地震）	7.9	死者47人、負傷者188人、住家全壊646 棟。
1983年5月26日 （昭和58）	（昭和58年（1983年）日本 海中部地震）	7.7	津波と地震動により被害。死者17人、負傷者 25人、住家全壊447棟。
1993年7月12日 （平成5）	（平成5年（1993年）北海道 南西沖地震）	7.8	死者1人。
1994年12月28日 （平成6）	（平成6年（1994年）三陸は るか沖地震）	7.6	死者3人、負傷者783人、住家全壊72棟 （被害は本震と最大余震を合せたもの）。
2003年5月26日 （平成15）	宮城県沖 →【地震本部の評価】 PDF	7.1	負傷者1人。
2003年9月26日 （平成15）	（平成15年（2003年）十勝 沖地震） →【地震本部の評価】 PDF	8.0	負傷者1人。
2008年7月24日 （平成20）	岩手県中部【岩手県沿岸北部】 →【地震本部の評価】 PDF →【リンク集】	6.8	負傷者94人、家屋全壊1棟。
2011年3月11日 （平成23）	（平成23年（2011年） 東北地方太平洋沖地震） 【地震本部の評価】	9.0	死者3人、行方不明者1人、負傷者110人、 住家全壊308棟、住家半壊701棟（令和3 年3月1日現在、消防庁調べ）。



不安な一夜を過ごした五戸町志戸岸



演者と同世代と
思われます。ピ
カピカの1年生
でした

仮住まいづくりを急ぐ中子どもたちは意外に明るく元気に遊ぶ



ザックリと地割れした東北本線乙供駅付近の線路盤



真ん中を人がやっと通れるほどのこしてくずれた
十和田市伝法寺の国道4号線



十和田市稲生川の堤防も決壊

五戸地区の部落民



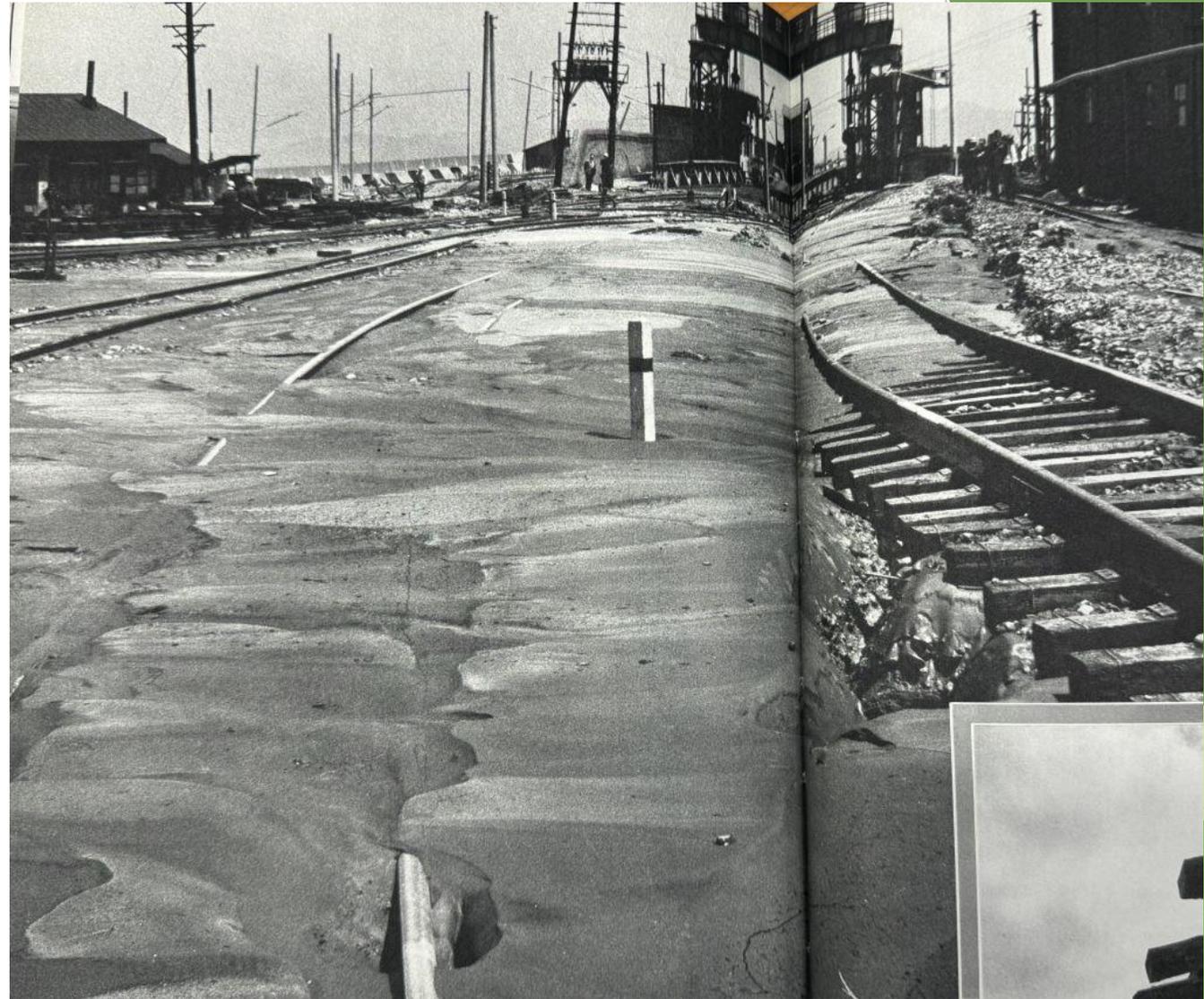
地震がおさまった直後レストランに火の手があがった八戸市



青森市では、飲み水がない、ご飯がたけないないという事態におちいった。自衛隊の給水車など大車輪の活躍でどうにか切り抜けたが、給水車が来ると一滴の水を求めて長い人の列がつづいた

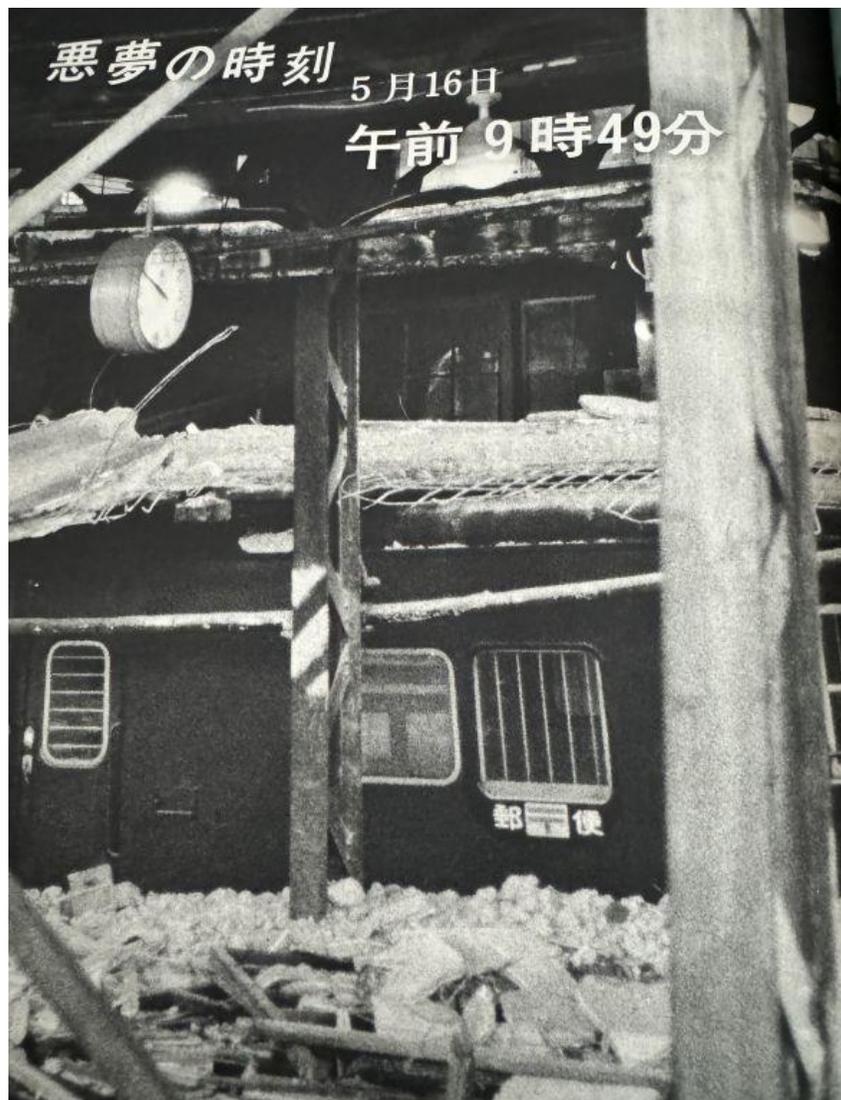


青森市柳町の水路が両側から圧迫され川底が盛り上がりキ裂が生じた

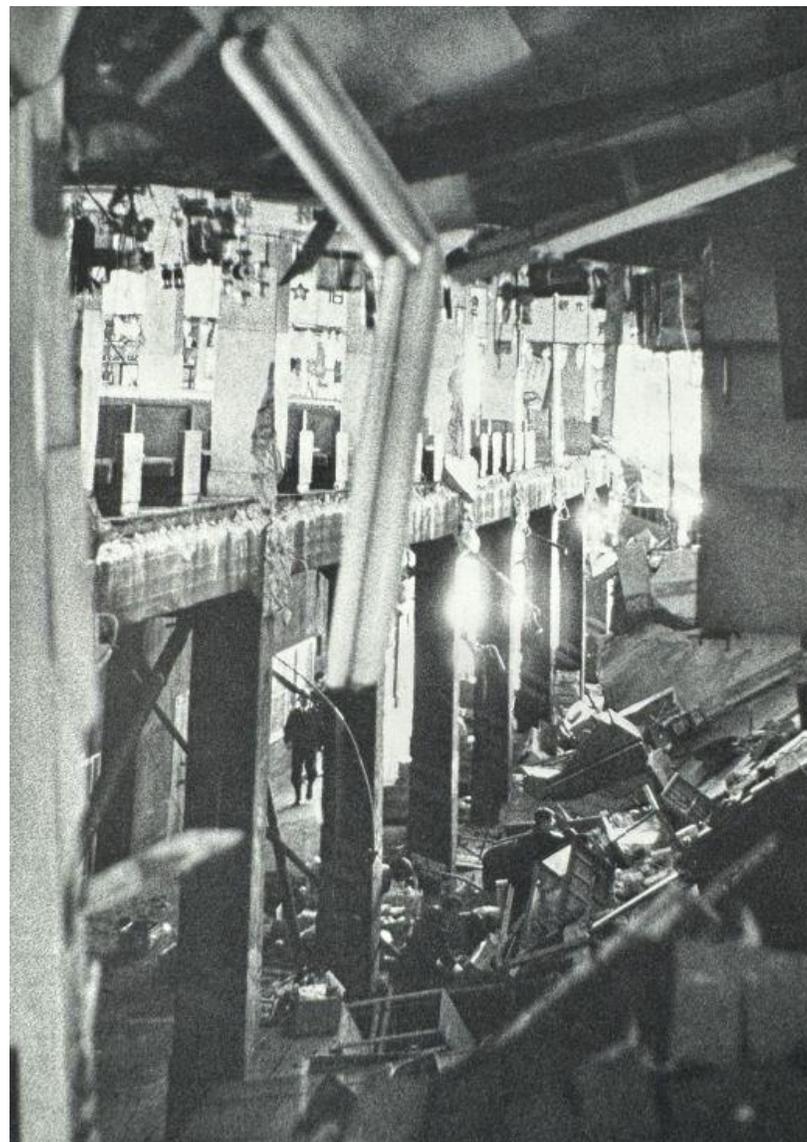


青森駅構内の線路盤が1.5メートル沈下。液状化現象が

国鉄青森駅の青函連絡船待合室の床が抜け、
下にいた郵便列車にくずれ落ちた。



悪夢の時刻 5月16日
午前 9時49分



床と壁がくずれ落ちた青森駅棧橋待合室の内部



子どもがいる家庭では洗濯物がたいへん。
消防署にたのんで消火栓をあけてもらって道路
でせんたく



青森市港町岸壁の石油タンク群の右端がぐらり傾き、隣のタンクに倒れかかった



町中がおののき、恐怖が渦巻いた。モダンな農業会館の窓がバリバリガチャンと音を立てて落ちた



当時非難した場所は現在の青森県庁北棟付近



津波にあらわれる八戸市館鼻漁港の岸壁



八戸港を襲った高潮のため沈没した漁船



十勝沖地震で煙突が折れた



油川での被害煙突の折れる被害



西田酒造店は一升瓶が崩れて壊れた



街の湯の煙突が地震で折れた



イタリア館十勝沖地震で煙突が折れた



油川での被害は煙突の折れる被害



西田酒造店は一升瓶が崩れて壊れた



街の湯の煙突が地震で折れた

海岸施設の被害

建設省で所管している海岸保全施設はむつ湾内だけであるが、そのうち、被害を受けたのは陸奥瀬沿岸直轄海岸堤防の西田沢地区 1.1km で地盤の流動化により護岸が15cm沈下し、目地付近にはき裂などの被害も見られ、被害額は1億8,000万円である。幸い、むつ湾内での津波はほとんどなく、海岸施設の破損による一般住民への被害はなかった。

青森県大震災の記録

—昭和43年の十勝沖地震—



写真1・3・15-5 波返しのジョイント付近のき裂
(青森海岸)

海岸施設の被害

建設省で所管している海岸保全施設はむつ湾内だけであるが、そのうち、被害を受けたのは陸奥瀬沿岸直轄海岸堤防の西田沢地区 1.1km で地盤の流動化により護岸が15cm沈下し、目地付近にはき裂などの被害も見られ、被害額は1億8,000万円である。幸い、むつ湾内での津波はほとんどなく、海岸施設の破損による一般住民への被害はなかった。



写真1・3・15-4 波返しと天端との目地のはなれ
(青森海岸)

むつ湾内での津波はほとんどなく、海岸施設の破損による一般住民への被害はないと記録されている。

西田沢地区青森海岸でき裂被害

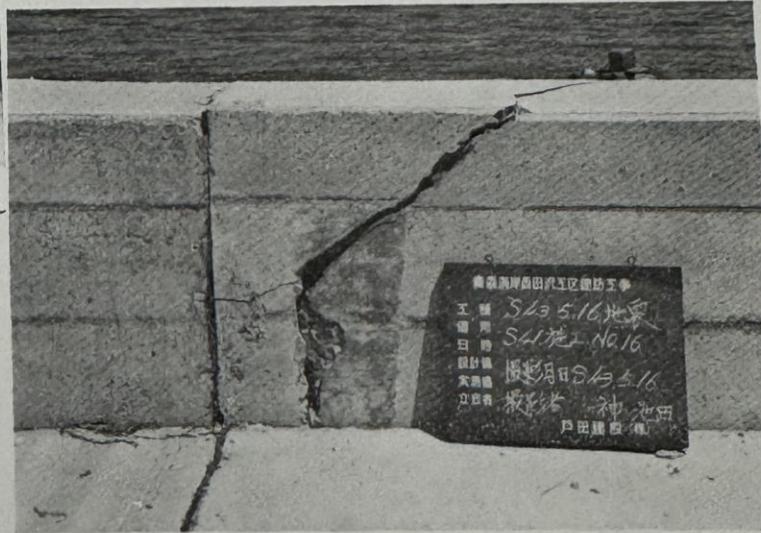


写真1・3・15-5 波返しのジョイント付近のき裂
(青森海岸)

**木材港付近から油川下町方向を望む
昭和40年十勝沖地震前の写真と思われる**



陸奥湾で津波は発生していました

当時はチリで大地震が発生、津波が襲来する報道はいつさいなかった

チリ地震は、1960年現地時間の5月22日15時11分14秒、チリ中部のビオビオ州からアイセン州北部にかけての近海、長さ約1,000 km・幅200 kmの領域を震源域として発生した超巨大地震である。**地震後、日本を含めた環太平洋全域に津波が襲来し**、大きな被害が発生した。**マグニチュード9.5**を記録した**観測史上世界最大級の地震**である。**チリ大地震、バルディビア地震**とも呼ばれる。

地震後、日本を含めた環太平洋全域に津波が襲来、陸奥湾にも及ぶ

昭和35年5月24日 東奥日報夕刊

けさ大津波 太平洋沿岸を襲う



死傷144 不明76

八戸で千余戸浸水

死傷三、行方不明五

道三陸の被害甚大

県災害救助法を発動



全滅に近い大船渡市

ソ連対米非難決議案

スパイ飛行中止させよ

夕刊 東奥日報

久慈は六、六の大波

拡大

被害陸奥湾内に及ぶ

運休列車続出

自衛隊五百人不出動

小島の安否不明

被言、陸奥湾内に及ぶ

陸奥湾にも津波が

自衛隊五百人が出動

陸上自衛隊第九混成団八戸駐とん部隊は竹下団長の指揮で五百人が出動、朝八時から八戸市内の白銀小中野三砲地帯などで避難指導と救助にあたっている。

全漁船に避難命令

大型ヘリコプターが出動し、八戸百石方面の災害地を飛び、警戒に当たっている。

【三沢市】本郷と三沢市を結ぶ三沢線は、四十五戸のうち一戸は緊急避難道をもつて小が、津波は約百はほとんど冠水はまた同部落のたの約八百は切れた。

時現在、床四十二戸、床下六十三戸の浸水家屋、人はトラックに家財道具を積んで避難している。

【陸奥湾内】青森土木事務所の間へでは、太平洋の津波は陸奥湾にも影響し、同日朝約二時潮がひいたが、その後高潮となり、午前九時現在青森港で一・七メートルの高潮となるなど干満潮の差が大きい。

【上磯】三戸村では消防団全員が出て村を避難させた。港内にいる二隻の救助機船は港外に流され、三蔵小学校は休校。

津波が来る前突然海水が約200メートル引いた
油川浪返、油川大浜、油川波岸、西田沢浜田見ていた





(有)鹿内建業

(株)山崎建設

栗嶋神社

レオパレスウエストタウン

浪岸

油川郵便局

酒肴処番屋
居酒屋・安価



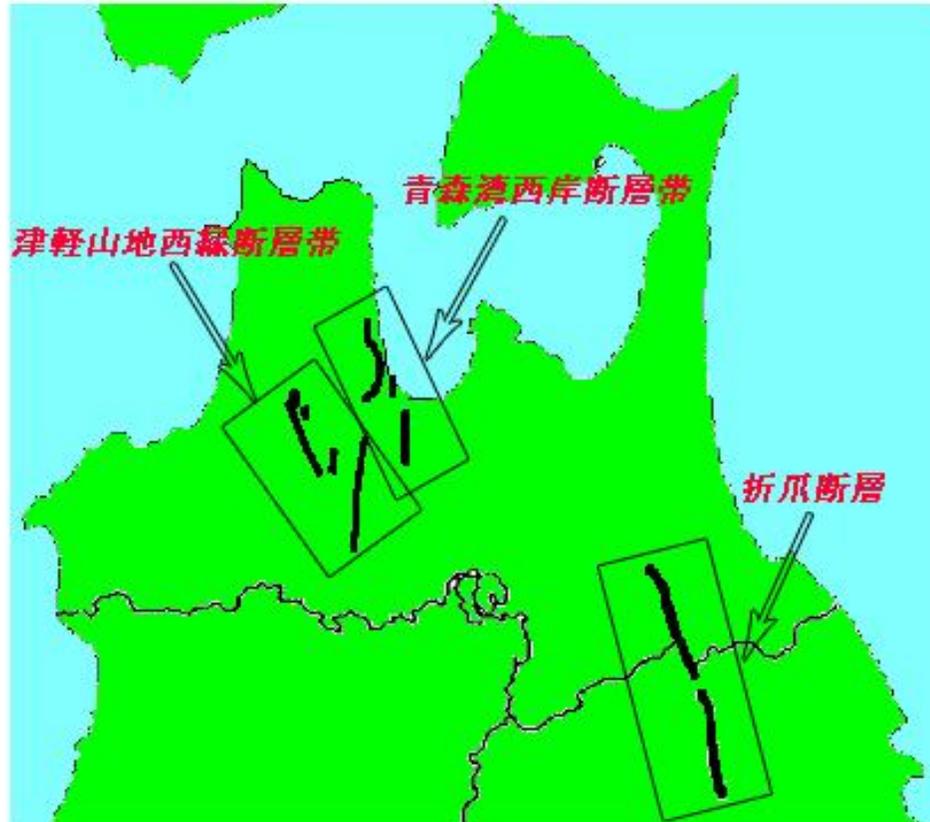
津波が静かに国道まで入りこんできた

★ 当時岸壁は無かった



青森湾西岸断層帶

青森湾西岸断層帯の長期評価



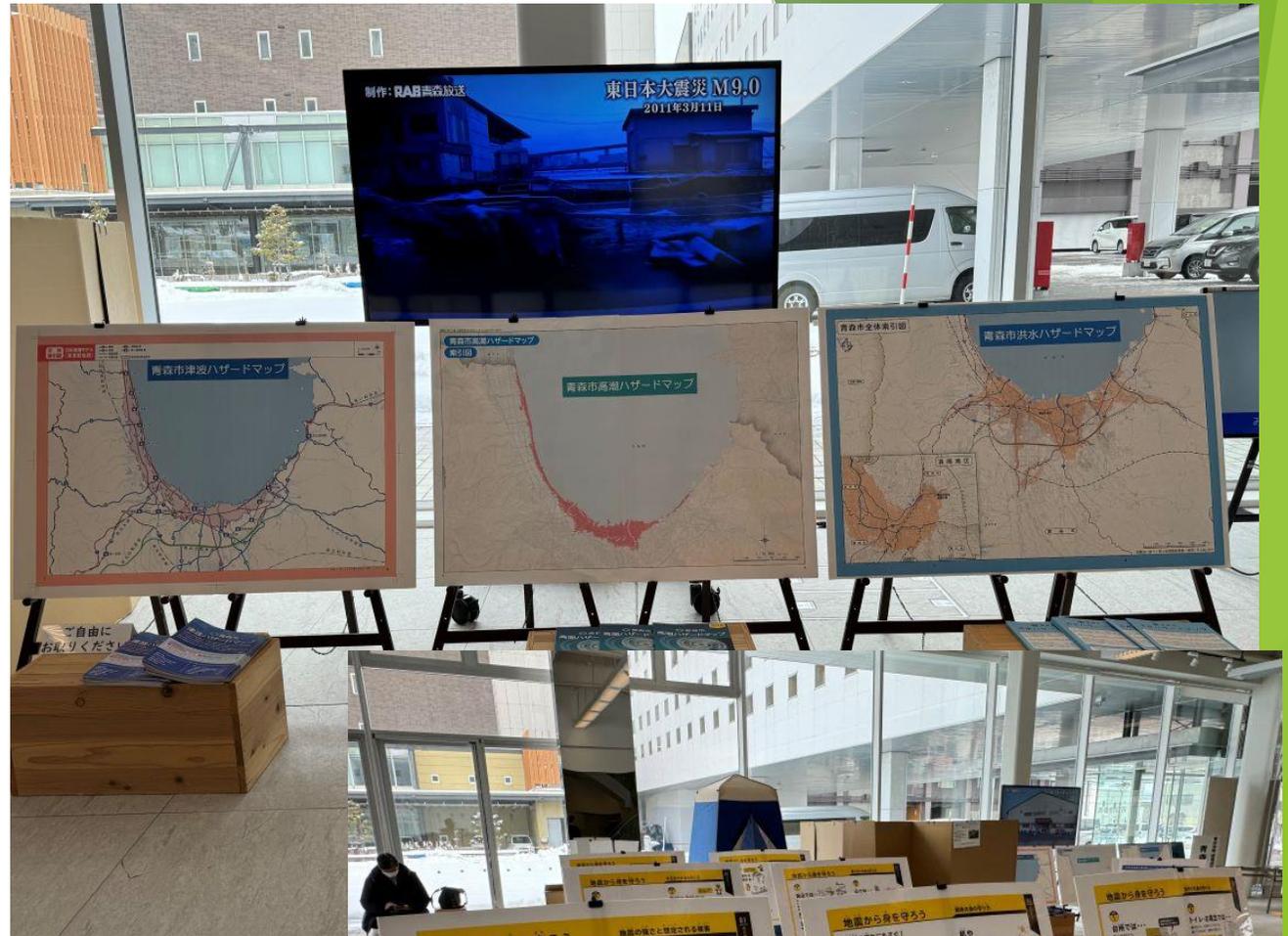
過去における活動が明らかではないことから、**信頼度は低いものの**、将来の地震（M 7.3程度）発生確率は、今後30年以内で0.5%～1%、50年以内で0.8～2%、100年以内で2～3%となっている。

https://jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_katsudanso/f009_aomori/



入内断層地震において想定される地震の規模及び被害想定

- ・青森市における内陸直下を震源とする、いわゆる入内断層地震の規模及び被害想定については、本市が平成26年から平成27年にかけて実施した「青森市災害被害想定調査」において、地震の規模を示すマグニチュードは6.7、震源域に近い本市西側の沿岸部では、震度7の揺れが想定されている。
- ・また、被害想定については、建物被害の9割以上が地震の揺れ、液状化、地震火災による被害となっている。具体的には、
 - 人的被害として、死者数が、約3,308人、負傷者数が、6,999人
 - 建物被害として、全壊が、約1万4,064棟、半壊が、約2万7,161棟
 - 想定される避難者数として、発災7日後、約5万7,000人となっている。



青森市役所本庁舎1Fサードフレイスでは1年に2回防災の特集を実施しています

ご清聴ありがとうございました